
OB 通信

2008 年 No.2

(2008.4)

第 11 回日本学生ハーフマラソン選手権大会

・永井(4)が 1° 21'56" の女子ハーフマラソン部記録を樹立

～目次～

- ・主将・各 PC より今シーズンの抱負 (2～3 ページ)
- ・第 11 回日本学生ハーフマラソン選手権大会 (4 ページ)
- ・春合宿 (5 ページ)
- ・平成 20 年度東北学連春季競技会 (6～11 ページ)
- ・自己記録更新者一覧(1/12～4/20) (12～13 ページ)
- ・副務からのお知らせ～OB 通信の電子メール配信について (14 ページ)
- ・今後の予定 (14 ページ)
- ・編集後記 (14 ページ)

春暖の候、会員の皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

今号では、第 11 回日本学生ハーフマラソン選手権大会、春合宿、平成 20 年度東北学連春季競技会の結果をお伝えいたします。あわせて、副務から **OB 通信の電子メール配信**についてお知らせいたします。

主将・各 PC より今シーズンの抱負

～主将抱負～

このたび、主将を務めさせていただく田中裕志です。時が経つのは早いもので、私の代が四年生になり、部を引っ張っていく立場となりました。四年生として、そして主将として、このシーズンが最高のシーズンとなるよう、部を引っ張っていきたいと思います。

早速ですが、今年の主要大会として東北インカレ、七大戦、白鷹駅伝の三つに標準を定めました。東北インカレは東北大学の総合力が試されます。院生、学部生関係なく東北大学の力を全てぶつけ、一点でも多く、一人でも多くの全日本インカレ出場を目指して戦えるチームにしていこうと思います。七大戦は今年地元開催です。未だ総合優勝を成し遂げていない東北大学にとって、地元の総合初優勝は部全体として最高の喜びになるはずです。部の結束を固め、夢を現実のものとしていこうと思います。白鷹駅伝は長距離のもの、と思っている人はいないでしょうか。勿論選手は長距離選手ですが、部員全体で会場に赴き、全体で応援する姿は、決して長距離だけの大会ではないと思います。部全体で戦い、全国への道を掴み取りましょう。

陸上競技は楽しい競技です。大会で勝つことも大事ですが、部員同士で楽しみや喜び、苦しみを分かち合い、お互い切磋琢磨していくのが部活というものです。皆には、この同じ環境で練習出来る、かけがえのない仲間との出会いに感謝し、この部で最高の時間を創造して行ってほしいです。また、私達は様々な方々の協力を得て陸上競技をさせてもらっています。OB や OG、三秀会の方々や、学校、両親からの援助、指導して下さるコーチや監督など、挙げるときりがありません。この方々への感謝をもって競技を出来る人は強いです。東北大学学友会陸上競技部の一員として誇りをもち、皆に感謝をもって陸上競技を精一杯楽しんでいきましょう。以上、新主将の抱負でした。一年間よろしくお願い致します。

田中 裕志

～短距離 PC 抱負～

短距離の目標は三秀総会で言ったものから変更はありません。「楽しく陸上をする」です。この目標を発表したときの皆さんの顔をよく覚えています。その顔に浮かぶものは苦笑でした。おそらく何とかの大会で優勝、何点とかを期待していたのだと思います。この文章も同じだと思います。七大優勝など、特に今年は地元開催なので大きな目標になりますが、ここで言わずとも、みなさんそれしか見えてないというぐらい気合が入っていると思うので、わざわざ言いません。が、七大戦、もちろんがんばりましょう。

そこで、今回の目標ですが、単純そうで実は忘れかけているのではないかと思います。部活動が「やらなければいけないこと」になってはいませんか？楽しく陸上をするためには、「やりたいこと」になってなくてはなりません。やれといわれたからやる、そうではなくて、やろうと思ったことをやる。一人一人が少し自分で考えて、能動的に練習できればきっと結果も満足いくものになると思います。僕も多少なりともそのお手伝いができればと思います。

柴田 智弘

～長距離 PC 抱負～

昨年末は多くの者が自己ベストを更新しましたが、その高い士気の中で迎えた冬季練も一人ひとりが積極的に距離を踏みました。しかし冬季練後半では疲労やそのケア不足が祟ったのか、故障者が続出してしまいました。そんな中でもケガなく走りこんだ者は冬季練総仕上げとして臨んだ立川ハーフで好記録を続出しています。春合宿以降にはケガ人も徐々に回復し、シーズンインに向けて果敢に早い設定で練習を行う者も多かった中、学連春季・仙台市長距離記録会等のシーズンインレースでは例年になく好タイムが続出しました。部内でのインカレ出場枠争いが良い方向に働いているのではないのでしょうか。ただ、あくまで今の目標はインカレです。選考レースとして4月中の記録会に出場していく中でも、練習で距離を踏み、体調管理を万全に行って、今シーズンの土台固めをしていきたいと思います。インカレでは近年の長距離種目得点の少なさを覆せるよう、チーム全員でぶつかっていきます。

平 聖也

～跳躍 PC 抱負～

昨年度は、一人一人が記録を伸ばしていき、さらに全カレ出場と、跳躍パートとして勢いがあった年でした。確実にチーム力はあがっていると言えます。今年で全カレ経験者が引退することで、戦力が落ちるのは確かでしょう。しかしチーム全体の更なるレベルアップを図り、今年度もその勢いにのり、インカレ、七大戦と盛り上げていきます！！

今年度の跳躍パートは、走れる跳躍になり、走りを活かした跳躍を目指します。そのためにも練習意識を高く持って、チーム内で競い、全員で切磋琢磨することでレベルアップしていきたいと思います。がんばります！！

菊地 亜加里

～投擲 PC 抱負～

投擲パートはパート員が集まって練習することがなくなってしまったので、特に目標は立てません。点数も七大戦以外は気にせず、大会への参加も含め全体的に自由にやっと思っています。やる気なし発言と解釈されても仕方ありませんが、黙って結果を残すことが”漢”かと。では今シーズンも適度に頑張っていくのでご支援の方お願いします。

今泉 卓真

春合宿を翌日に控えての厳しい日程のなか、冬季練習の総仕上げとして東北大学からは 11 名の部員が出場しました。

男子の部では、大場(2)が 1° 09'53" の自己記録をマークし、部歴代 8 位にランクインする快走を見せました。続く島田(4)、川口(M1)、荒川(M2)も部歴代 20 傑にランクインする記録でゴールし、好記録連発のレースとなりました。

女子の部では、永井(4)が 1° 21' 56" で 4 位入賞、大淵(4)が 1° 22' 30" で 5 位入賞を果たしました。また、永井の記録は女子ハーフマラソンの部記録となりました。

このように、冬季練習の成果を十分に発揮できたレースとなり、多くの部員がシーズンインに向けて勢いをつけることができました。

■男子ハーフマラソン

氏名(学年)	記録	順位
大場 直樹(2)	1° 09'53"	289 位
島田 健作(4)	1° 10'03"	293 位
川口 亮平(M1)	1° 12'13"	358 位
荒川 淳一(M2)	1° 12'26"	370 位
筋内 正輝(2)	1° 14'03"	410 位
相澤 直人(4)	1° 14'56"	426 位
中道 尚史(3)	1° 19'26"	481 位
早坂 達也(2)	1° 21'03"	489 位

■女子ハーフマラソン

氏名(学年)	記録	順位
永井 瑞希(4)	1° 21'56"	4 位
大淵 真波(4)	1° 22'30"	5 位
千葉 絵里子(2)	1° 27'48"	13 位

#春合宿(3/10～3/14)

於 栃木県

栃木市総合運動公園陸上競技場と栃木県総合運動公園補助競技場を練習の拠点として、今年も北海道大学との合同合宿を行いました。冬季練習の総まとめとして、またシーズンインに向けての足掛かりとして、充実した合宿にすることができました。

合宿最終日はあいにくの雨となりましたが、明海大学を交えて三大学合同で恒例のエンドレスリレーを行い、五日間の合宿を締めくくりました。



写真：合宿最終日、北海道大学との一枚



写真：補助競技場での練習風景

今年度のトラックシーズン開幕戦として、東北大学からは今年も多く部員が出場しました。一日目は、強風が吹き荒れる中での競技となり、短距離種目や跳躍種目では多くの記録が参考記録となり、男子棒高跳びは二日目に延期となりました。

二日目は、前日とはうって変わって穏やかな気候の下で競技が行われ、上々のシーズンインを迎えることができた部員も多かったようです。

<短距離>

男子100mには、跳躍パートからの出場もあり、冬季練習の成果を試す場として多くの部員が出場しましたが、強風の影響で多くの組が参考記録となってしまいました。

男子4×400mRは、学年対抗のチーム編成で大いに盛り上がりました。結果は、4年生チームの圧勝でしたが、M1チームと2年生チームの接戦も見ものでした。

■男子100m

組(風)	氏名(学年)	記録	順位
1組(+3.1)	藤澤 鐘吾(4)	11"56	7着
2組(+4.2)	青柳 光裕(M1)	11"44	5着
3組(+3.8)	八木 洋光(M1)	11"31	6着
4組(+4.6)	原田 貴正(M1)	11"95	8着
5組(+1.5)	柴田 智弘(3)	11"61	3着
	橋本 耕太郎(4)	17"51	8着
6組(+6.2)	中嶋 啓太(M1)	11"49	7着
7組(+0.3)	神林 啓人(4)	11"69	6着
8組(+3.7)	富樫 宏朗(2)	11"56	3着
	宇田 侑平(4)	DNS	-
9組(+3.1)	長谷川 翔平(M1)	11"99	5着
11組(+1.4)	鈴木 貴幸(2)	11"84	1着
12組(+4.6)	岡本 聖司(4)	11"92	2着

■男子 200m

組(風)	氏名(学年)	記録	順位
1組(±0.0)	青柳 光裕(M1)	22"82	6着
	八木 洋光(M1)	23"19	8着
3組(-2.2)	佐藤 圭祐(4)	23"21	1着
	田中 裕志(4)	23"86	6着
	橋本 耕太郎(4)	DNS	-
5組(-0.8)	中嶋 啓太(M1)	24"14	1着
	落合 裕規(3)	24"62	5着
	宇田 侑平(4)	DNS	-



写真：男子 200m 第3組、佐藤(4)と田中(4)の力走

■男子 400m

組	氏名(学年)	記録	順位
2組	田中 裕志(4)	52"05	6着
3組	細川 淳一(M2)	53"04	5着
	佐藤 圭祐(4)	53"05	6着
	神林 啓人(4)	56"51	8着
4組	望月 明人(3)	52"96	4着
	加藤 聡(4)	54"36	7着

■男子 110mH

組(風)	氏名(学年)	記録	順位
1組(+0.6)	岩崎 辰哉(2)	15"81	5着
2組(+2.3)	藤澤 鐘吾(4)	15"98	3着
	一ノ倉 聖(2)	16"07	4着

■男子 400mH

組	氏名(学年)	記録	順位
1組	柴田 智弘(3)	56"93	4着
2組	加藤 聡(4)	59"07	4着
3組	細川 淳一(M2)	57"85	1着

■男子 4×100mR

組	走順(学年)	記録	順位
2組	藤澤(4)・青柳(M1)・佐藤圭(4)・八木(M1)	44"43	3着

■男子 4×400mR

組	走順(学年)	記録	順位
1組	加藤(4)・田中裕(4)・佐藤圭(4)・細川(M2)	3'26"35	1着
	八木(M1)・原田(M1)・青柳(M1)・中嶋(M1)	3'32"42	3着
	瀧澤(2)・本間(2)・大場(2)・岩崎(2)	3'34"55	4着
	望月(3)・新沼(2)・落合(3)・柴田(3)	3'40"13	6着



写真:男子4×400mR、八木(M1)を追う望月(3)

<中・長距離>

一日目に行われた 1500m、10000m では、やはり強風の影響で苦戦を強いられることとなり、好記録は出ませんでした。

一方、二日目に行われた男子 800m では、本間(2)が自身二度目の 1 分台を記録し、今シーズンの活躍を期待させる結果を残しました。また、男子 5000m では、1 組目の出場者が全員 15 分台、島田(4)と鈴木(3)が自己記録更新と、幸先の良い結果となりました。



■男子 800m

組	氏名(学年)	記録	順位
1 組	本間 亮太(2)	1'59"58	2 着
2 組	寺川 亮(4)	2'09"03	7 着

写真：男子 800m 第 1 組、本間(2)自身二度目の 1 分台

■男子 1500m

組	氏名(学年)	記録	順位
1 組	大場 直樹(2)	4'20"27	6 着
	川口 亮平(M1)	4'21"32	7 着
	平 聖也(3)	4'21"64	8 着
	早坂 達也(2)	4'31"08	11 着

■男子 5000m

組	氏名(学年)	記録	順位
1 組	島田 健作(4)	15'33"45	3 着
	小林 和也(M1)	15'37"70	5 着
	平 聖也(3)	15'39"28	6 着
	川口 亮平(M1)	15'57"10	8 着
	箭内 正輝(2)	15'57"84	9 着
	早坂 達也(2)	DNS	-
2 組	鈴木 雄輔(3)	16'09"87	1 着
	渡辺 貴哉(4)	16'47"09	7 着
3 組	相澤 直人(4)	16'54"00	3 着
	中道 尚史(3)	17'57"88	12 着

■男子 10000m

組	氏名(学年)	記録	順位
1組	小林 和也(M1)	33'51"73	5着

■女子 1500m

組	氏名(学年)	記録	順位
1組	大湊 真波(4)	5'29"60	10着

■女子 5000m

組	氏名(学年)	記録	順位
1組	大湊 真波(4)	18'43"28	3着

<跳躍>

男子走高跳に出場した岡本(4)、男子走幅跳に出場した落合(3)、女子走高跳に出場した菊地(3)らが自己記録に肉迫する跳躍を見せ、「走れる跳躍」を目標に掲げた今年度の跳躍パートに期待が持てる結果となりました。



写真：男子走高跳、岡本(4)が 1m85 の試技を一発でクリア

■男子走高跳

氏名(学年)	記録	順位
岡本 聖司(4)	1m85	2位

■男子三段跳

氏名(学年)	記録(風)	順位
長谷川 翔平(M1)	13m43(±0.0)	6位
染谷 拓(4)	NM	-

■男子棒高跳

氏名(学年)	記録	順位
白井 孝明(3)	4m30	5位
藤澤 鐘吾(4)	DNS	-
橋本 耕太郎(4)	DNS	-

■女子走高跳

氏名(学年)	記録	順位
菊地 亜加里(3)	1m40	3位

■男子走幅跳

氏名(学年)	記録(風)	順位
岩崎 辰哉(2)	6m31(+3.3)	12位
落合 裕規(3)	6m19(+2.0)	15位
染谷 拓(4)	5m56(+1.7)	21位

■女子走幅跳

氏名(学年)	記録(風)	順位
菊地 亜加里(3)	4m89(+0.4)	8位
飛内 茜(3)	3m98(+1.0)	20位
酒巻 貴子(4)	3m54(+2.6)	22位

<投擲>

2008年地元開催の七大戦に向けて、昨年の七大戦で大活躍だった投擲パートがついに始動しました。今年も七大戦での大量得点獲得が期待される投擲 PC・今泉(3)を筆頭に、それぞれがまずは腕試しといった投擲を見せました。

■男子円盤投

氏名(学年)	記録	順位
今泉 卓真(3)	36m31	7位

■男子ハンマー投

氏名(学年)	記録	順位
今泉 卓真(3)	45m96	4位

■男子砲丸投

氏名(学年)	記録	順位
今泉 卓真(3)	12m30	3位

■男子やり投

氏名(学年)	記録	順位
藤澤 鐘吾(4)	47m38	9位
落合 裕規(3)	43m74	13位



写真：女子砲丸投、菊地(3)の一投

■女子砲丸投

氏名(学年)	記録	順位
菊地 亜加里(3)	7m78	8位

■女子やり投

氏名(学年)	記録	順位
菊地 亜加里(3)	28m47	9位

自己記録更新者一覧(1/12~4/20)

<男子>

・100m

佐藤 圭祐(4) 11"29(風 : +1.9) (4/19 宮城陸協強化記録会)

・1500m

渡辺 貴哉(4) 4'20"39 (4/13 第7回仙台市陸協長距離競技会)

・5000m

島田 健作(4) 15'33"45 (4/6 平成20年度東北学連春季競技会)

鈴木 雄輔(3) 16'09"87 (4/6 平成20年度東北学連春季競技会)

渡辺 貴哉(3) 16'22"48 (4/20 第193回日本体育大学長距離競技会)

・110mH

一ノ倉 聖(2) 16"21(風 : +1.8) (4/19 宮城陸協強化記録会)

・10kmロード

山家 翔(H18年卒) 31'43" **部歴代3位** (1/27 第56回勝田全国マラソン)

・ハーフマラソン

早坂 達也(2) 1° 15'17" (1/13 第35回高根沢町元気あっぷハーフマラソン)

渡辺 貴哉(4) 1° 16'21" (1/13 第35回高根沢町元気あっぷハーフマラソン)

山家 翔(H18年卒) 1° 08'27" **部歴代4位** (2/17 第7回湘南ひらつかハーフマラソン)

大場 直樹(2) 1° 09'53" **部歴代8位** (3/9 第11回日本学生ハーフマラソン選手権大会)

島田 健作(4) 1° 10'03" **部歴代9位** (3/9 第11回日本学生ハーフマラソン選手権大会)

川口 亮平(M1) 1° 12'13" **部歴代17位**(3/9 第11回日本学生ハーフマラソン選手権大会)

荒川 淳一(M2) 1° 12'26" **部歴代20位**(3/9第11回日本学生ハーフマラソン選手権大会)

箭内 正輝(2) 1° 14'03" (3/9 第11回日本学生ハーフマラソン選手権大会)

相澤 直人(4) 1° 14'56" (3/9 第11回日本学生ハーフマラソン選手権大会)

・フルマラソン

山家 翔(H18年卒) 2° 31'02" **部歴代3位** (3/16 第11回東京・荒川市民マラソン)

川口 亮平(M1) 2° 57'25" (3/16 第11回東京・荒川市民マラソン)

<女子>

・10kmロード

大渕 真波(4) 37'09" 部歴代2位・東北学生歴代4位 (1/27 第56回勝田全国マラソン)

永井 瑞希(4) 37'37" 部歴代3位・東北学生歴代5位 (1/27 第56回勝田全国マラソン)

・ハーフマラソン

永井 瑞希(4) 1° 21'56" 部記録 (3/9第11回日本学生ハーフマラソン選手権大会)

大渕 真波(4) 1° 22'30" 部歴代3位 (3/9第11回日本学生ハーフマラソン選手権大会)

千葉 絵里子(2) 1° 21'56" 部歴代6位 (3/9第11回日本学生ハーフマラソン選手権大会)

#副務からのお知らせ

<OB通信の電子メールによる配信について>

OB通信の電子メールによる配信を実施することが平成19年度秋季三秀総会において再承認されました（平成15年度秋季三秀総会においてすでに承認されていました）。電子メールによる配信を実施する理由は以下のとおりです。

- ① 年間30万円以上かかる郵送費を削減できる
- ② 迅速に情報・連絡事項を送信可能
- ③ 送信回数に制限がなく、より頻繁に配信可能
- ④ データ類（画像、動画など）も配信可能

電子メールでの配信をご希望の方は、以下のメールアドレスに氏名、卒業年度を明記し、その旨をお知らせください。後日、副務より確認のメールをお送りします。お知らせをいただかなかった方には、引き続き紙面で配信いたします。

☆OB通信電子メール配信希望の連絡先

Mail:hukumu_tohoku_ob2sin@yahoo.co.jp

#今後の予定

5月16～18日 第61回東北学生陸上競技対校選手権大会（宮城スタジアム）

今シーズン最初のメインレース、東北インカレです。現在、各パートとも選手選考中です。学部生、院生ともに総力をあげて臨みますので、応援よろしく願いいたします。

#編集後記

長い冬が終わり、ついにシーズンインとなりました。学連春季をはじめとする各種記録会において、それぞれが今の実力を確かめることができたようです。これからは、東北インカレに向けて各自調整に入っていくことになります。

さて、今号のOB通信より電子メール配信がスタートしました。現在、約230名のOB・OGの方々より電子メールでの配信希望を受けております。引き続き、電子メール配信の希望を受け付けておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

文責 副務 鈴木雄輔